

あけぼの

第25号

平成30年7月16日発行

教委人権教育課

☎229-3253 FAX 229-3017

人とのつながりを大切にしたい ～外国につながる子どもの教育～

津市には、8,000人を超える外国人住民が生活しています。就労や留学、実習生など来日目的や在留資格はさまざまです。

以前は短期間だけ日本で働いて母国に帰るといふ人も多かったのですが、現在は、日本で家を建てたり、母国から家族を呼び寄せたりして、日本での定住を視野に入れて居住している人も少なくありません。

生まれた国を離れ日本で生きるという決断は、大人にとっても決して簡単なものではなかったはず。そして、子どもたちの多くは、家族の決断によって自分の意志とは無関係に母国の友達に別れを告げ、言葉も文化も習慣も異なる日本で暮らすこととなります。そうした子どもた



ちの多くは、日本に来て不安な気持ちでいっぱいです。

今回の特集「人とのつながりを大切にしたい～外国につながる子どもの教育～」は、この津市で暮らすことになった外国につながる子どもたちの未来を守るために、子どもたちと一緒に笑ったり、泣いたり、悔しがったり、仲間と共に頑張っ

ている市民の皆さんの活動を紹介します。あんなに不安いっぱいだった子どもたちが、はじけるような笑顔を見せてくれるようになる、そこには、「人のつながり」があります。
※外国につながる子ども…外国籍の子どもや日本国籍を持っていても外国にルーツを持つ子どもを含めた言い方

人権コラム お互いに理解と尊重を

私たちは、家庭から出るごみを分別し、地域のごみ集積所に持っていきます。そして、ごみ収集車がそのごみを収集します。こうした光景は、町のあちらこちらで見られる日常の一コマです。しかし、まったく知らない町へ引っ越すことになったり、ごみの分別の仕方やルールが変わったりしたら、誰もが戸惑いを覚えることでしょう。

世界では日本のように各家庭でごみを分別し、ごみ集積所へ出して収集するような国ばかりではありません。分別することなくまとめて収集し、施設で分別作業を行う国もあります。津市には約80カ国の国籍の外国人が生活しています。日本とはルールが違う国から来た場合には、今住んでいる地域のごみ出しのルールが分からないこともあるでしょう。そ



んなとき大切になるのは地域における人と人とのつながりです。

それなのに「外国人は…」とよくないイメージでひとくくりに見ることで地域社会のつながりから疎外されていることがないでしょうか。日本人も外国人も、共に津市で暮らす者として、お互いの文化の多様性を認めて理解し、誰もが暮らしやすい社会をつくっていきましょう。